

木材利用拡大に向け、働きかけを継続

(一社)木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会

(一社)木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会(原口博光代表理事会長)は、6月15日、令和5年度の第13回理事会・定時総会を開催。一号議案の役員人事、二号議案の事業報告、三号議案の財政報告について審議し、すべて了承された。

協議会は環境の見地から林業・木材産業に關係する企業・団体等の連携・協議を行うことで、同産業の振興に必要な政策の立案及びその効果的な実施について、国会、政府、行政等に提言している組織。すでに40名の国会議員からなる議連も創設している。その要望は多岐にわたるが、住宅分野では断熱や防音などの性能に優れる木製サッシの普及と需要拡大を提示。そのための補助制度の創設などを求めている。

協議会はこれまで一時消費エネルギー量低減に結びつく木製サッシの普及について助成金を国土交通省や環境省、林野庁に要望、前向きな回答を引き出した実績を持つ。また、防音工事で樹脂とアルミしか認めていなかった防衛省に対しても防音性能が高い木製サッシを「住宅用防音工事採用防音材料」として認めるよう働きかけを行ってきた。

総会の中で原口代表理事会長は昨年11月に防衛省から木製サッシの利用について回答があったことを紹介。現在防衛省でも対応が進みつつあることを報告した。

最後に原口代表理事会長は今後の方針について言及。木材利用拡大に向け、行政に対し議連と連携して要望活動を継続的に行っていく考えを示した。



総会で説明を行う原口代表理事会長